

山形県教育センターだより

研究・情報課 指導主事 齋藤 秀志

1 はじめに

県教育センターは、本県の中核的な研究・研修機関として、教員の資質向上のための研修の充実、教育課題を踏まえた実践的研究の推進と成果の普及、そして学校や各研究会の研究・研修活動への協力、さらには各種教育資料の情報発信などを通じて、学校や先生方の支援を行っています。

本年度、当センターの組織体制を改編し、さらなるサポートの充実に力を入れています。

2 「教育の情報化」の推進

(1) 「教育の情報化」に関する研修講座

本年度は以下の研修講座を実施しました。

<初任者研修>

- ・教科指導と ICT の活用及び情報セキュリティなどの講義や演習

<専門研修>

- ・ICT を活用した授業づくりと情報モラル講座
- ・校務の情報化推進リーダー養成講座

<出前講座>

- ・情報モラルワークショップ
- ・著作権ワークショップ

上記の出前講座は、昨年度（独）教員研修センターより委託され、当センターで開発した『研修テキスト』を活用しました。『研修テキスト』は、“保護者との信頼関係に基づく安心・安全な学校づくり”をテーマとして開発しました。教育の情報化以外では、保護者への対応や信頼の絆を結ぶコミュニケーション研修等が記載されております。『研修テキスト』は、当センターのホームページからダウンロードできますので、ご活用ください。

上記以外でも、管理職のための危機管理講座等、様々な研修において、教育の情報化に関する研修

講座を実施しております。

平成 25 年度から年次進行で実施される新学習指導要領総則には、すべての校種で「情報モラルを身に付け」の記載があります。総則は本来、学校全体の教育目標や指導計画を作成する際の指針を示す内容です。総則にこのように記載されているということは、学校におけるすべての教育活動で情報モラルを指導しなければならないことを示唆しています。

当センターでは、新学習指導要領に対応した研修講座を通じて、各学校の教育の情報化をサポートしてまいります。

(2) グループウェア体験・導入CD

平成 20 年度より 3 年間にわたり、校務の情報化研究事業として、グループウェアを導入した場合の有効性を研究しました。研究の成果物として、コストをかけずにグループウェアを体験・導入できる CD を開発しました。国立情報学研究所が次世代情報共有基盤システムとして開発した NetCommons と、オープンソースソフトウェアの Ubuntu を利用しました。

校務の情報化を推進する事例として反響も大きく、国立情報学研究所のホームページやリーフレットで紹介されています。詳細に関しては、当センターのホームページをご覧ください。

3 カリキュラムサポートプラザ

昨年度から、学校づくりや授業づくりを総合的に支援するために、カリキュラムサポートプラザを開設しております。休日に開催した「先生応援サポートプラザ」では、多くの先生方に参加していただきました。今後も教育資料の情報提供や相談を行ってまいりますので、是非ご活用ください。